

- ✓ 評価基準については、**4つの評価の基本的な方針**のもと、**7つの評価基準**、**15の評価項目**で整理してはどうか。
- ✓ 評価にあたり、
「質保証の視点」については、各評価基準・項目において、根拠資料をもとに**高等教育機関としてふさわしい水準に達しているかを厳格に判断**してはどうか。

「質向上の視点」については、評価の基本的な方針や評価基準・項目を踏まえた上で、**エビデンスを伴う質向上のための傑出した取組と教育成果（アウトカム）**に関して、質保証の視点で提出する資料も踏まえて、**各学部等で明示・記載してもらい総合的に勘案して評価**してはどうか。

I. 明確な「養成する人材像」と「卒業認定・学位授与の方針」の策定・公表		
評価基準①	評価項目	⇒質保証の視点
評価基準②	評価項目	⇒質保証の視点
II. 「養成する人材像」と「卒業認定・学位授与の方針」を達成するためのカリキュラム・教育環境体制		
評価基準①	評価項目a ～ 評価項目e	⇒（各評価項目の）質保証の視点
評価基準②	評価項目a	⇒質保証の視点
	評価項目b	⇒質保証の視点
III. 学生の学修成果の適切な把握と評価		
評価基準①	評価項目a ～ 評価項目c	⇒（各評価項目の）質保証の視点
評価基準②	評価項目	⇒質保証の視点
IV. 学生の学びと成長の結果を基盤とした不断の自己改善		
評価基準①	評価項目a	⇒質保証の視点
	評価項目b	⇒質保証の視点

質向上の視点

- 「評価の基本的な方針」の要素を踏まえた上で、質向上のための傑出した取組をエビデンスもって示せているか。
- （傑出した取組等を通じて）教育成果（アウトカム）を上げていることを根拠を示して説明できているか。

I. 明確な「養成する人材像」と「卒業認定・学位授与の方針」の策定・公表

<p><評価基準①> 大学の理念や社会・地域のニーズを踏まえ、学位にふさわしい「養成する人材像」を適切に定め、社会にわかりやすく掲げているか</p>	<p><評価項目></p> <p>a. 大学の理念や社会・地域のニーズを踏まえ、明確な「養成する人材像」が適切に定められ、示されていること</p>	<p><質保証の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 「養成する人材像」が学位にふさわしく、大学・学部等の理念や社会・地域のニーズ等を踏まえたものになっており、学生・教職員の間で共有され、社会に対して発信されているか。
<p><評価基準②> 「養成する人材像」に照らして必要かつ学位にふさわしい資質・能力を「卒業認定・学位授与の方針」(DP)において示しているか</p>	<p>a. 「養成する人材像」に照らして必要かつ学位にふさわしい資質・能力が「卒業認定・学位授与の方針」(DP)で示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 掲げている「養成する人材像」とDPとの関連が示され、DPが分野別参考基準や国際基準、学士力やジェネリックスキルに関する国際基準などを踏まえたものになっているか。

「質保証の視点」による評価基準・項目

II. 「養成する人材像」と「卒業認定・学位授与の方針」を達成するためのカリキュラム・教育環境体制

<p>＜評価基準①＞ 「教育課程編成・実施の方針」(CP)に則して、学生が体系的かつ主体的に学びを深められる適切なカリキュラムを整備しているか</p>	<p>＜評価項目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 「卒業認定・学位授与の方針」(DP)と整合性がある「教育課程編成・実施の方針」(CP)が策定されていること b. 「教育課程編成・実施の方針」(CP)と「卒業認定・学位授与の方針」(DP)に基づく学修成果の評価を多面的に行う考え方が策定されていること c. 「教育課程編成・実施の方針」(CP)に則してカリキュラムが体系的に編成され、ふさわしい授業科目を開設していること d. 授業を担当するにふさわしい資質・能力を有している教員及び指導補助者が授業担当として配置されていること e. 「教育課程編成・実施の方針」(CP)に照らして、必要な資質・能力を測るために「入学者受入れの方針」(AP)が適確に定められ、入学者選抜方法が明確に示されていること 	<p>＜質保証の視点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> • DPと整合性があるCPが定められているか。 • 教育の成果を点検・評価するための学修成果の評価を多面的に行う考え方が策定されているか。 • CPに照らしてカリキュラムが体系的に編成されているか。 • カリキュラムを編成するための責任と権限を持った決定機関があるか。 • シラバス等を通じて「授業科目」「授業の方法・内容」「年間の授業計画」が明示されているか。 • 学位にふさわしい授業科目が開設されているか。 • 授業による教育効果、授業時間外の必要な学修等を考慮して、単位数が適切に定められているか。 • 研究業績や教育実績等に照らしてふさわしい資質・能力を有している教員等が配置されているか。 • 適確なAPが定められ、それに沿った入学者選抜方法が示されているか。
	<p>a. 学修支援に関する大学としての方針に基づき、学修支援に必要な情報を学生が確認できていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学修支援に関する適確な方針・体制があり、留学生や障害を持つ学生など個々のニーズに合った情報提示が行われているか。
	<p>b. 学修環境が整備されているとともに、必要な情報を学生が確認できていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 校地・校舎等面積の基準を満たし、基準上必要な施設設備を備え、ラーニングコモンズ等の自主学習スペースなど学生の学修のために必要なスペース等の確保が十分か。

「質保証の視点」による評価基準・項目

III. 学生の学修成果の適切な把握と評価

<p><評価基準①> 「卒業認定・学位授与の方針」(DP)に沿って厳格な学位授与を行うために、学生の学修成果について適切に把握と評価を行っているか</p>	<p><評価項目></p> <p>a. 卒業の基準、判定方法、体制等を明らかにしていること</p>	<p><質保証の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業の基準や判定方法・体制が明らかで、その内容等が十分か。 学生に対して、授業・研究指導の方法・内容、1年間の授業・研究指導の計画をあらかじめ明示することとなっていない。
	<p>b. 授業の単位認定が適切に行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単位認定が適切に行われているか。
	<p>c. 卒業時の「卒業認定・学位授与の方針」(DP)の到達度に関して、「何を学び、身に付けることができたのか」を多面的な方法により把握し、評価していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> DPの到達度を把握するために適確な直接評価と間接評価を実施しているか。
<p><評価基準②> 在学中の学修成果の結果が、大学・学部の掲げる「養成する人材像」につながっているか</p>	<p>a. 「養成する人材像」を実現するために必要な「卒業認定・学位授与の方針」(DP)に示されている資質・能力を身に付けた学生を社会等に輩出できていることを明らかにし、社会に示していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「養成する人材像」やDPに見合う人材を育成し、社会に対して輩出できているという明確なデータや根拠を示しているか。

IV. 学生の学びと成長の結果を基盤とした不断の自己改善

<p><評価基準①> 学修成果の可視化によって得られた結果を、教育改善に活用しているか</p>	<p><評価項目></p> <p>a. 内部質保証システムが構築されていること</p>	<p><質保証の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 内部質保証システムに係る規程や体制があり、規程どおりに運用されているだけでなく、客観的なデータ等を用いて運用されているか。
	<p>b. 様々なステークホルダーの意見を通じて定期的に点検・評価し、改善・向上を図っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域・社会のニーズを把握するために適格なステークホルダーからの意見を聞いて、改善・向上を図っているか。

「質向上の視点」による評価

質向上の視点による評価は、エビデンスを伴う質向上の傑出した取組を通じた教育成果（アウトカム）を総合的に勘案して評価する。

✓ 「評価の基本的な方針」の要素を踏まえた上で、質向上のための傑出した取組をエビデンスをもって示せているか。

(明確な「養成する人材像」と「卒業認定・学位授与の方針」の策定・公表に係る取組例)

- ・ 社会・地域のニーズの把握に向けた体系的・継続的な調査や産業界・自治体・卒業生等のステークホルダーとの意見交換を実施し、「養成する人材像」を定期的に見直し・再定義を行っている。
- ・ 「養成する人材像」との整合性を踏まえ、DPの見直し・改善に取り組んでいる。
- ・ DPに掲げられる資質・能力について、アセスメントに耐えうる具体性をもって定められている。
- ・ 「養成する人材像」やDPについて学生が理解し、学修計画に結び付けるような取組を行っている。

(「養成する人材像」と「卒業認定・学位授与の方針」を達成するためのカリキュラム・教育環境体制の整備に係る取組例)

- ・ 直接評価と間接評価を組み合わせた多面的な評価を盛り込むなど優れたアセスメントプランを策定している。
- ・ カリキュラム全体が体系的に設計され、学修を段階的に深化させる構造が整備されるなど、学修者本位のカリキュラムとなるよう高いレベルの創意工夫が行われている。
- ・ DPと授業科目との対応関係が学生にわかりやすい形で体系的に示されている。
- ・ 学修上の支援を必要とする学生を早期に把握し、個別相談・補習・学習支援プログラム等を効果的に行うための実施体制が整備されている。

(学生の学修成果の適切な把握と評価に係る取組例)

- ・ 大学の理念や専門分野の特色を踏まえ、学位授与の質保証と透明性を一層高めるための独自の工夫や先進的な取組を行っている。
- ・ DPの到達度に当たり、直接評価（授業評価、卒業研究等の評価、主要事業科目の試験等）を中心としつつ、間接評価（学生アンケート等の自己評価等）を活用するなど多面的かつ精緻な学修成果の把握や評価が行われている。
- ・ 卒業生や雇用先の調査、キャリア追跡等を活用し、卒業後の活躍状況や社会的評価を詳細に把握している。

(学生の学びと成長の結果を基盤とした不断の自己改善に係る取組例)

- ・ 内部質保証システムにおいて、学生や学生団体が参画し、積極的かつ効果的に意見・評価・提案を受け入れ、反映する体制が構築されている。
- ・ 地域社会、産業界、自治体、卒業生、外部有識者等からの積極的かつ効果的に意見・評価・提案を受け入れ、反映する体制が構築されている。
- ・ 学修成果の可視化により得られた結果を、組織的・継続的に分析し、教育課程や授業改善、修学支援等の具体的改善に的確に活用し、独自の工夫や先進的な取組が行われている。

✓ （傑出した取組等を通じて）教育成果（アウトカム）を上げていることを根拠を示して説明できているか。

<教育成果（アウトカム）の例>

- ・ 学生の高い満足度や成長実感を示すデータ
- ・ 直接評価、間接評価を適切に組み合わせ、学生がDPに示された資質・能力を身に付けていることを明確に示すデータ
- ・ 学生の就職状況、進学率、専門分野の進路と高い関係性があるかなど、DPに沿った人材輩出を示すデータ
- ・ 企業アンケート等を活用した卒業生の活躍状況や人材育成の社会への貢献に関するデータ